

令和元年度
除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組
プラットフォーム(第6回)

議事概要

1. 日時 令和元年12月12日(木) 14:00～15:40
2. 場所 TKP札幌駅カンファレンスセンター(3F) カンファレンスルーム3C
3. 次第
 - (1) 今冬の実証実験計画
 - (2) 準天頂衛星受信機の最新動向他
 - (3) ライティング技術、AR技術等の除雪作業の効率化に寄与する技術
 - (4) その他の情報提供
4. 要旨
 - (1) 今冬の実証実験計画 (除雪機械の高度化推進グループ)
 - ・実証実験計画は、①シュート装置自動化、②3D-LiDARによる雪提高さ 検知、
③準天頂衛星みちびきの受信機増設によるフロントガラス遮蔽走行試験、
④周辺探知技術による安全対策を予定。
 - (2) 準天頂衛星受信機の最新動向他 ((一社)衛星測位利用推進センター)
 - ・準天頂衛星の動向は、マゼランシステムジャパン、三菱電機、コアの3社が受信機を出している。今年7月から11月にかけて、安価なものが出てきている。
 - (3) ライティング技術、AR技術等の除雪作業の効率化に寄与する技術
(北海道開発局 事業振興部 技術管理課)
 - ・ライティング技術は、除雪車を認識させるため路面に各種情報を表示し、安全

性の向上を、AR技術は、吹雪による視程障害時に、自車位置や周辺構造物を表示し、除雪作業の効率化を図ることを目的としている。

(4) その他の情報提供

◇雪のトップランナーの取り組みについて

(北陸地方整備局 道路部 北陸雪害対策技術センター)

- ・道路の雪対策について最新の装備、技術、知見をもち、広報、広聴活動の中心的役割を果たす組織として、自治体や業界団体、学術分野と連携していくことを目的に掲げている。今冬は、国道49号において、除雪トラックのサイドシャッター操作の自動化を図った除雪作業を始める他、フロントプラウ操作の自動化試験を行う予定。

◇5Gロボットトラクタ (北海道大学 大学院農学研究院 野口教授)

- ・ロボット農機にセンサを搭載し、得られたデータを5Gで収集、ビッグデータ化を図った上で、エッジクラウドでAI分析処理して、リアルタイムでフィードバックするようなくみを考えている。

以上